

資料編

資料 1 中川運河の年表

1924年（大正13年）	都市計画運河網の決定、事業認可
1926年（大正15年）	中川運河の工事着手
1930年（昭和5年）	幹線及び北支線、中川口第一閘門の供用開始
1932年（昭和7年）	東支線、松重閘門の供用開始（全線開通）、第1回中川運河まつり開催
1933年（昭和8年）	露橋下水処理場完成
1937年（昭和12年）	松重ポンプ所の供用開始、名古屋汎太平洋平和博覧会開催
1952年（昭和27年）	中川口ポンプ所の供用開始
1963年（昭和38年）	中川口第二閘門の供用開始
1964年（昭和39年）	舟運のピーク
1968年（昭和43年）	松重閘門の閉鎖
1976年（昭和51年）	松重閘門の使用廃止
1977年（昭和52年）	松重閘門の保存を決定
1982年（昭和57年）	南郊運河東部埋め立て、南郊公園完成
1984年（昭和59年）	荒子川公園完成
1986年（昭和61年）	松重閘門公園完成、港北運河東部埋め立て、港北公園完成
1991年（平成3年）	中川口第一閘門の廃止
1993年（平成5年）	基本計画策定、名古屋港漕艇センター開設
1996年（平成8年）	中川口西遊歩道完成
1997年（平成9年）	小栗橋橋詰緑地完成
1998年（平成10年）	小碓緑道完成、昭和橋橋詰緑地完成
2008年（平成20年）	中川口緑地完成
2010年（平成22年）	堀止緑地工事着手
	中川運河本線供用開始80周年
2012年（平成24年）	中川運河全線供用開始80周年
	中川運河再生計画策定

資料2 中川運河再生計画策定経過

事項	日時	主な議題
第1回 検討委員会	平成22年 7月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長及び副委員長の選任 ・趣旨、基本計画の進捗状況 ・他計画等による位置づけ、市民等の声 ・今後の検討内容
第1回 検討部会	平成22年 8月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長の選任 ・コンセプト・目標(方針)の変更 ・環境機能の向上
第2回 検討部会	平成22年 9月2日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・船上視察
第1回 ワークショップ	平成22年 10月3日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・中川運河ってどんなところ？ ～中川運河のイメージについて～
第3回 検討部会	平成22年 10月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標・方針の考え方、目標年度 ・交流機能の充実 ・中川運河開通80周年記念事業の開催
第2回 ワークショップ	平成22年 10月16日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・中川運河を見てみよう！ ～船に乗って中川運河を見学～
第3回 ワークショップ	平成22年 10月23日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢を描こう！ ～中川運河の将来像について～
中川運河開通 80周年記念 シンポジウム	平成22年 10月23日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演：運河に映る都市（東京工業大学名誉教授 中村良夫氏） ・ワークショップの成果発表 ・ミニコンサート ・パネルディスカッション
第4回 検討部会	平成22年 12月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト及び目標 ・港湾・物流機能の持続的発展 ・防災・安全機能の向上 ・空間計画
第5回 検討部会	平成23年 1月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中川運河再生計画(素案)
第2回 検討委員会	平成23年 2月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中川運河再生計画(素案) ・来年度の予定
第3回 検討委員会	平成23年 5月23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の取り組み ・(仮称)中川運河再生計画(素案) ・今後の予定等
第6回 検討部会	平成23年 7月21日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・空間計画(案) ・プロムナード(案) ・水質浄化の目標値等 ・緑の軸の形成－緑化率(案) ・治水機能の強化における検討状況 ・松重閘門のあり方 ・水上交通の誘導(案) ・沿岸土地利用事業者アンケート(案)

事項	日時	主な議題
沿岸土地利用 事業者 アンケート	平成 23 年 7 月 29 日 (金) ～ 8 月 12 日 (金)	・中川運河の沿岸用地の貸付を受けて利用している事業所に対し、今後の沿岸用地の利用や中川運河の再生に関する意向を把握するために実施 (194 社、242 敷地)
第 7 回 検討部会	平成 23 年 9 月 6 日 (火)	・空間計画(案) ・プロムナードの整備内容・管理手法 ・防災機能の向上 ・松重閘門を中心とする再生構想(案) ・計画推進のためのしくみ(案) ・実施計画の概要 ・沿岸土地利用事業者アンケート結果(報告)
第 4 回 検討委員会	平成 23 年 11 月 1 日 (火)	・(仮称)中川運河再生計画(案) ・沿岸土地利用事業者アンケート結果 (報告)
中川運河 ふれあいまつり	平成 23 年 12 月 11 日 (日)	【会 場】 中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 【主 催】 名古屋市／名古屋港管理組合／名古屋都市センター 【目 的】 運河再生に向けたキックオフとして、中川運河に関わりのある団体などの活動の紹介や市民との交流の機会として実施 【来場者数】 160 人 【実施内容】 ・中川運河に関する活動団体の展示 ・中川運河に関する活動団体のプレゼンテーション ・中川運河に関する講演 (名古屋工業大学准教授 秀島栄三氏) ・バイオリンコンサート ・中部盲導犬協会による盲導犬体験、ポータンとのクリスマス撮影会、中川運河の映像放映、参加者によるクイズラリー など
第 5 回 検討委員会	平成 24 年 2 月 9 日 (木)	・(仮称)中川運河再生計画(原案)
パブリック コメント	平成 24 年 7 月 10 日 (火) ～ 8 月 10 日 (金)	・意見提出者数：52 名 ・意見提出方法：電子メール 20 名、ファックス 4 名、郵送 16 名、持参等 12 名 ・意見総数：180 名
中川運河再生 シンポジウム 2012	平成 24 年 8 月 4 日 (土)	【会 場】 港区役所講堂 【主 催】 名古屋市／名古屋港管理組合 【共 催】 名古屋都市センター 【目 的】 中川運河再生計画(案)のパブリックコメントの周知と、中川運河再生に向けた市民の機運醸成 【来場者数】 135 人 【実施内容】 ・基調講演(法政大学デザイン工学部教授 陣内秀信氏) ・バイオリンコンサート ・中川運河再生計画(案)の概要説明 ・パネルディスカッション
第 6 回 検討委員会	平成 24 年 9 月 10 日 (月)	・中川運河再生計画(案)に対する市民意見 ・中川運河再生計画の策定・公表 ・今後の予定

資料3 中川運河再生ワークショップ

開催日	内容
平成22年 10月3日(日)	【中川運河ってどんなところ?】 (22名参加) ～中川運河のイメージについて～
平成22年 10月16日(土)	【中川運河を見てみよう!】 (19名参加) ～船に乗って中川運河を見学～
平成22年 10月23日(土)	【将来の夢を描こう!】 (17名参加) ～中川運河の将来像について～
<p>【提案1】 「80年の歴史を……」 上流は、松重閘門等の産業遺産を後世に伝える「つたえる 80年の歴史ゾーン」とし、歴史めぐりを行う。 中流は、運河機能を残しながら整備する「活かす 倉庫群活用ゾーン」とし、倉庫群をライトアップする。 下流は、水辺のレクリエーション、祭りを楽しむ「あそぶ 水辺と親しむゾーン」とし、中川口通船門体験を行う。</p>	
<p>【提案2】 「にぎやか」 中川運河全体としてにぎやかさを演出するため、「桜」「船」「いこう」「きれいな水」をキーワードとする。 桜を植えた公園を作って名所とし、船上から桜を見ることができるようにする、船上でお酒を飲む、クルージングをする、運河岸を開放し散歩道とする、泳ぎたい等を実現させる。</p>	
<p>【提案3】 「大名古屋発展の聖地なも」 「水質浄化」「親水空間の創生」「歴史の継承・未来」がキーワード。ランニングや運動器具によるスポーツができるような空間、創作活動ができるアトリエ、小動物や水鳥が生息する浅瀬、水質浄化にも貢献する金シャチの噴水を作る等。</p>	
<p>【提案4】 「中川運河流域 千年エコ構想」 「自然エネルギー」「環境条例」「エコメンテナンス」を切り口とする。運河の一部は埋め立て、市民農園や地産地消を推進する農園とする、オーガニックカフェを開設する、自然を感じる護岸としメンテナンスしやすいものとする、中川運河エコブランドを作る等。</p>	



中川運河再生ワークショップの様子

資料4 シンポジウム等の開催

《中川運河開通 80 周年記念シンポジウム》

<p>日 時：平成 22 年 10 月 23 日（土）午後 2 時～午後 5 時</p> <p>会 場：名古屋港ポートビル 4 階 講堂</p> <p>参加人数：120 名</p>	
<p>基調講演 『運河に映る都市』／中村 良夫氏（東京工業大学名誉教授）</p> <p>中川運河の概要説明</p> <p>中川運河再生ワークショップの成果発表</p> <p>弦楽五重奏団ミニコンサート／トリスタン弦楽五重奏団</p> <p>パネルディスカッション／中村 良夫氏（前出）</p> <p style="padding-left: 100px;">秀島 栄三氏（名古屋工業大学大学院准教授）</p> <p style="padding-left: 100px;">田村 伴次氏（NPO 法人伊勢湾フォーラム相談役）</p> <p style="padding-left: 100px;">青木 奈美氏（サカエ経済新聞編集長）</p> <p style="padding-left: 100px;">コーディネーター 羽根田 英樹氏（名古屋都市センター上席調査研究統括監）</p>	
基調講演	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋は戦後復興の事業で大きな道路があるので比較的是っきりしている方である。その目鼻立ちの中でも中川運河は別格と言うくらい大きなもので、大変な財産である。 ・水辺にはインパクトがあり、記憶に残りやすい。名古屋を考えた時に、中川運河がすぐ思い浮かばないのは大変残念である。中川運河を新しい都市の記憶の中心にして欲しい。 ・近年の最先端企業の立地を見ていると、魅力的な都市に立地する傾向にあるようである。魅力的な都市とは、単に企業がある、レストランがある等と言ったことではなく、都市の持っている人間的な魅力、つまり文化的な魅力がある都市ということである。 ・これからの都市間競争は、文化力の競争だと考えて都市の行く末を考えるべきである。必要なのは企業やレストラン等都市にあるものをいかに演出するかが重要となってくる。 ・人のいない風景は大変つまらないものである。近くに住宅があって、そこから犬の散歩をしに来るように、運河周囲にある生活の気配をいかにみせるかということが重要である。 ・魅力的な都市をつくるということは、都市の文化の創造であり、都市の活力の向上にもつながる重要な視点である。
パネルディスカッション	<p>中川運河の価値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋港は都心から離れているため忘れられがちであるが、大変に価値を持った場所であり、名古屋が誇れるものとして、中川運河をアピールしていくことが大事である。 ・運河ならではのまちあるいは空間構成に更に磨きをかけていくべきである。 ・市民のための安全や安心といった面でのポテンシャルが非常に高いと思う。 ・中川運河も堀川のように魅力を発掘して、再生していただければいいと期待している。 ・大自然ではなく、小自然とも呼ぶべき手のひらの自然へともっていくように考えると良い。 ・風の通り道と言うことなので、風を現代的なアート等で表現するというような、大自然を人間の文化に翻訳することが必要である。

パネルディスカッション	ポテンシャルの生かし方	<ul style="list-style-type: none"> ・水上交通では、橋詰に最低でも一つの船着き場を整備することで、可能になるのではないか。 ・人が集まる場所にして、常に情報発信をすることが大切であり、インパクトのあるアートイベントを行うと良いのではないかと。 ・荒川の事例のように、人が使いながらその場所に価値をつけていくことが必要である。 ・運河の水を徹底的にきれいにするのも一つのやり方だが、現状でも、夜景等では十分きれいに見えるので、そこで勝負するといった考え方もある。
	どうやって実現していくのか	<ul style="list-style-type: none"> ・民間や市民の新しい試みを認めるようなしくみをつくるべきである。 ・お金も大事だが、本当に重要なのは良いアイデアを出してくれる人と協議会のように知識の蓄積ができる場をつくることである。 ・実現のためには、全体のマスタープランを作ること、誰かの良い思いつきをちょっとやってみることが必要である。



中川運河開通 80 周年記念シンポジウムの様子

《中川運河ふれあいまつり》

日 時：平成 23 年 12 月 11 日（日）午後 1 時～午後 4 時 30 分
 会 場：中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター 4 階
 参加人数：160 名

中川運河に関する活動団体の展示

伊勢湾フォーラム／東海龍舟／鈴木バイオリン製造／中部盲導犬協会／中川運河キャナルアート
 ／名古屋市ボート協会／名古屋市・名古屋港管理組合

中川運河に関する活動団体のプレゼンテーション

中部盲導犬協会／中川運河キャナルアート／名古屋市ボート協会／東海龍舟／伊勢湾フォーラム
 ／中川ライオンズクラブ

中川運河に関する講演

中川運河再生に向けた提案（名古屋工業大学大学院准教授 秀島栄三 氏）
 中川運河の歴史や現状のミニ講座（名古屋都市センター）

バイオリンコンサート

スズキメソードの子ども達と先生 16 名

その他

中部盲導犬協会による盲導犬体験
 東海龍舟によるドラゴンボートデモンストレーション（荒子川運河を往来）
 ポータンとのクリスマス撮影会
 中川運河の映像放映
 参加者によるクイズラリー（参加者に記念品贈呈）

来場者アンケート（回収数 81）

ふれあいまつりの感想

とてもよかった	まあまあよかった	ふつう	あまりよくなかった	よくなかった	無回答
34	27	15	1	0	4
42.0%	33.3%	18.5%	1.2%	0.0%	4.9%

年 齢

19 歳以下	20～64 歳	65 歳以上	無回答
26	34	18	3
32.1%	42.0%	22.2%	3.7%

住 所

港区	中川区	守山区	熱田区	昭和区	西区	北区	その他市内	市外	無回答
18	10	5	4	4	4	4	12	11	5
22.2%	12.3%	6.2%	4.9%	4.9%	4.9%	4.9%	14.8%	13.6%	6.2%

中川運河は将来どうなればよいと思うか（自由記入）

- きれいになってほしい。
- きれいになるといいですね。
- もっときれいになればいいと思います。
- きれいでうつくしい運河にしてほしいと思います。
- もっと中川運河ふれあいまつりをして、小さい子どもたちが興味を持ってみんなで守っていければ！
- 水質を清く。
- 現在河口付近にゴミが浮かんでいるので、クリーン活動をお願いしたい。
- ゴミをへらしてきれいな川になってほしい。
- ゴミがあんまりないようになればいいと思います。
- 安曇野（長野県）のように、ゆったりと自然と調和した川になるのが理想だが、あまり夢ばかり追っ

- ては無理なので、せめて泳げる川になればすばらしい。「泥の河」(へドロの川)を美しくしたい。
- 清流で市民が水辺で楽しめるようなところをしたい。
 - きれいになって、人がいっぱい集まる場所になるといいな～。
 - 金魚がいるといいな。
 - 魚つりができるよう。お魚広場。
 - 生物が帰ってくるような環境をつくること。
 - 中川運河で泳ぎたいです。
 - 岸辺の改修と水の浄化。
 - 市民の憩いの場所となれば！水辺の公園とか。
 - 両側に桜を植える。散歩道とサイクリング道をつくる。
 - 夕すずみで散歩が出来る様にまわりの環境がととのえばよいと思います。
 - 市民の憩いの場、交流の場として活用。
 - 公園などをもっと多く作ってほしい。(いこいの場所的に)
 - みどりがたくさん。
 - 水遊びをしたいです。
 - 冬に水がおおったらスケートができるといいなと思います。
 - みんなの水スポーツのメッカ。
 - ボートで名古屋駅から名古屋港まで行けるようにしてほしい。もっときれいな河にしてほしい。
 - 観光船が行き来できる運河になればと思います。運河に光が咲く。
 - 皆々様の楽しい娯楽となり、舟の屋形を大希望したい。
 - 臭いがしなくなり、ささしまライブから金城埠頭まで水上バスの運航ができると良い。露橋水処理センターの完成をもっと早くしてください。合流式下水処理の改善を。
 - 遊覧船があればいいと思います！
 - 運河沿いにいろいろ店を出して、市民のいこいの場になって欲しい。観光船を運航させて名古屋の新しい観光地になって欲しい。
 - 中川運河は将来広さを大きくして欲しいと思う。
 - もっと整備されて利用大になればよいと思います。それと名古屋市民にもっとPRを！
 - ベルギーの様な運河になれば良いと思う。
 - おしゃれな川になるとよい。川沿いの環境が整うとよい。
 - 良くなればいい。

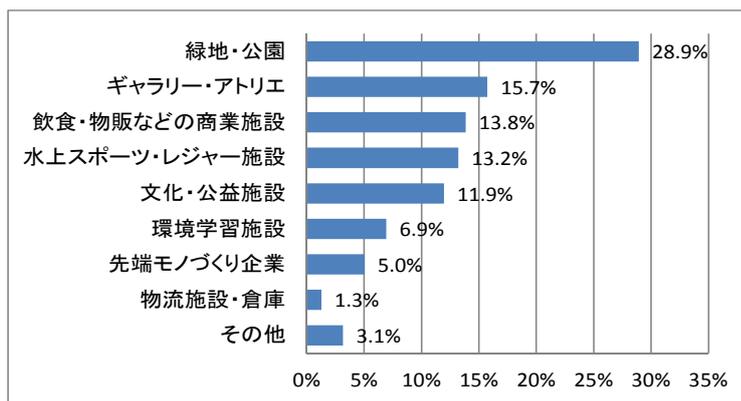


中川運河ふれあいまつりの様子

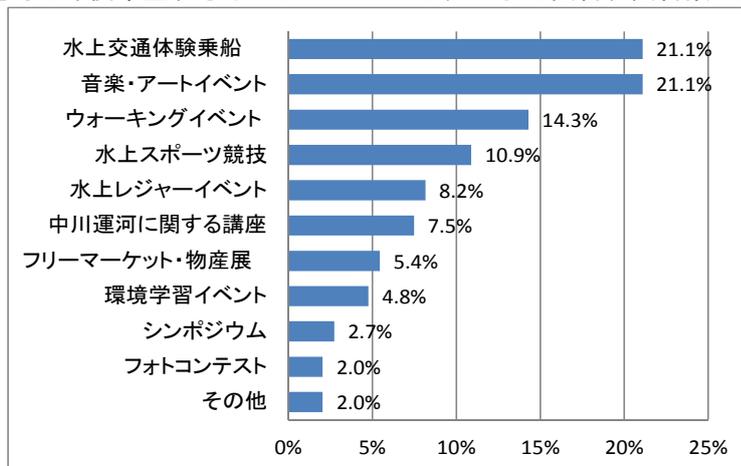
これからの中川運河に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ささしまから露橋水処理センター、あるいは松重閘門までのサイクリングコースを作ってはどうか。 ・中川運河沿岸で大人の社会見学が出来るのではないかと。移動には太陽光発電の船を使うと中川運河らしいのではないかと。 ・中川口緑地周辺でジョギングをしているが、プロムナードがもっとつながれば、さらにコース設定に幅が広がって運河の景観を楽しみながらマラソン大会が開催できるのではないかと。 ・ドラゴンボートの世界選手権大会を開催したい。 ・運河沿いの空間は感性を刺激するので、アーティストを育てる場、海外のアーティストを招き入れる場として活用できないかと。 ・水位の違う2つの運河が、松重閘門でつながれば大きな価値を持つ。松重閘門の復活を最優先で取組んでほしい。 ・船が頻繁に走るようになると水質が改善される可能性がある。
------------------	--

来場者アンケート (回答数 67)	<p>1. 回答者の属性</p> <p>職業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会社員</th> <th>公務員</th> <th>自営業</th> <th>学生</th> <th>その他</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19 28.4%</td> <td>9 13.4%</td> <td>5 7.5%</td> <td>3 4.5%</td> <td>24 35.8%</td> <td>7 10.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>住所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>中川区</th> <th>港区</th> <th>熱田区</th> <th>南区</th> <th>緑区</th> <th>名東区</th> <th>その他市内</th> <th>市外</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10 14.9%</td> <td>6 9.0%</td> <td>6 9.0%</td> <td>3 4.5%</td> <td>3 4.5%</td> <td>3 4.5%</td> <td>14 20.9%</td> <td>7 10.4%</td> <td>15 22.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>年齢</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>19歳以下</th> <th>20～59歳</th> <th>60歳以上</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 1.5%</td> <td>19 28.4%</td> <td>28 41.8%</td> <td>19 28.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>性別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>53 79.1%</td> <td>4 6.0%</td> <td>10 14.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. シンポジウムについて</p> <p>陣内教授の基調講演の感想</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>大変良かった</th> <th>良かった</th> <th>普通</th> <th>あまり良くなかった</th> <th>良くなかった</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25 37.3%</td> <td>34 50.7%</td> <td>5 7.5%</td> <td>1 1.5%</td> <td>0 0.0%</td> <td>2 3.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネルディスカッションの感想</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>大変良かった</th> <th>良かった</th> <th>普通</th> <th>あまり良くなかった</th> <th>良くなかった</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29 43.3%</td> <td>23 34.3%</td> <td>4 6.0%</td> <td>0 0.0%</td> <td>0 0.0%</td> <td>11 16.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 中川運河の再生について</p> <p>中川運河で今後希望する方策について(3つまで回答、回答数 180)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方策</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水質の改善</td> <td>21.1%</td> </tr> <tr> <td>水上交通の充実</td> <td>12.8%</td> </tr> <tr> <td>松重閘門の復活</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>プロムナードの整備</td> <td>10.6%</td> </tr> <tr> <td>沿岸の緑化推進</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>景観整備</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>倉庫の新たな活用</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>地震・津波対策</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>沿岸用地の土地利用の緩和</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>水上スポーツの活性化</td> <td>3.9%</td> </tr> <tr> <td>治水対策</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2.8%</td> </tr> </tbody> </table>	会社員	公務員	自営業	学生	その他	無回答	19 28.4%	9 13.4%	5 7.5%	3 4.5%	24 35.8%	7 10.4%	中川区	港区	熱田区	南区	緑区	名東区	その他市内	市外	無回答	10 14.9%	6 9.0%	6 9.0%	3 4.5%	3 4.5%	3 4.5%	14 20.9%	7 10.4%	15 22.4%	19歳以下	20～59歳	60歳以上	無回答	1 1.5%	19 28.4%	28 41.8%	19 28.4%	男	女	無回答	53 79.1%	4 6.0%	10 14.9%	大変良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	25 37.3%	34 50.7%	5 7.5%	1 1.5%	0 0.0%	2 3.0%	大変良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	無回答	29 43.3%	23 34.3%	4 6.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 16.4%	方策	割合	水質の改善	21.1%	水上交通の充実	12.8%	松重閘門の復活	11.1%	プロムナードの整備	10.6%	沿岸の緑化推進	9.4%	景観整備	9.4%	倉庫の新たな活用	8.3%	地震・津波対策	5.0%	沿岸用地の土地利用の緩和	4.4%	水上スポーツの活性化	3.9%	治水対策	1.1%	その他	2.8%
会社員	公務員	自営業	学生	その他	無回答																																																																																										
19 28.4%	9 13.4%	5 7.5%	3 4.5%	24 35.8%	7 10.4%																																																																																										
中川区	港区	熱田区	南区	緑区	名東区	その他市内	市外	無回答																																																																																							
10 14.9%	6 9.0%	6 9.0%	3 4.5%	3 4.5%	3 4.5%	14 20.9%	7 10.4%	15 22.4%																																																																																							
19歳以下	20～59歳	60歳以上	無回答																																																																																												
1 1.5%	19 28.4%	28 41.8%	19 28.4%																																																																																												
男	女	無回答																																																																																													
53 79.1%	4 6.0%	10 14.9%																																																																																													
大変良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	無回答																																																																																										
25 37.3%	34 50.7%	5 7.5%	1 1.5%	0 0.0%	2 3.0%																																																																																										
大変良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	無回答																																																																																										
29 43.3%	23 34.3%	4 6.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 16.4%																																																																																										
方策	割合																																																																																														
水質の改善	21.1%																																																																																														
水上交通の充実	12.8%																																																																																														
松重閘門の復活	11.1%																																																																																														
プロムナードの整備	10.6%																																																																																														
沿岸の緑化推進	9.4%																																																																																														
景観整備	9.4%																																																																																														
倉庫の新たな活用	8.3%																																																																																														
地震・津波対策	5.0%																																																																																														
沿岸用地の土地利用の緩和	4.4%																																																																																														
水上スポーツの活性化	3.9%																																																																																														
治水対策	1.1%																																																																																														
その他	2.8%																																																																																														

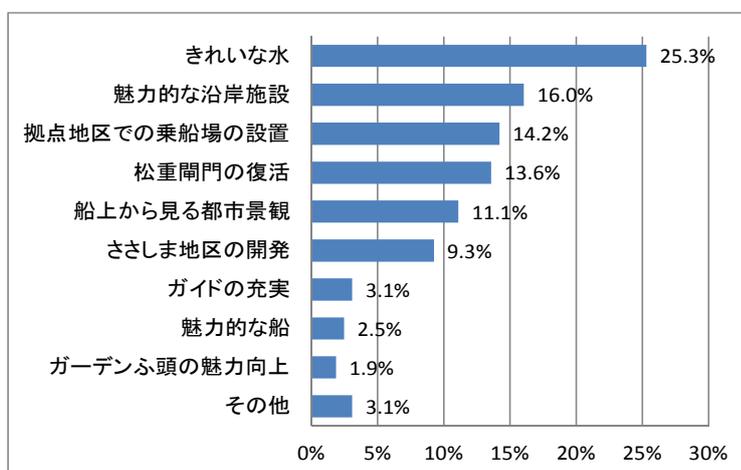
中川運河の沿岸用地に今後希望する施設について(3つまで回答、回答数 159)



中川運河で今後希望するイベントについて(3つまで回答、回答数 147)



中川運河での水上交通の活性化に必要なことについて(3つまで回答、回答数 162)





中川運河再生シンポジウム 2012 の様子

資料5 沿岸土地利用事業者アンケート

1. 調査の概要

【調査目的】

中川運河の沿岸用地の貸付を受けて利用している事業所に対し、今後の沿岸用地の利用や中川運河の再生に関する意向を把握するために実施

【調査主体】

名古屋市／名古屋港管理組合

【調査方法】

貸付敷地ごとに調査票を作成し、貸付名義の事業所への記入を依頼
郵送による配布・回収

【調査時期】

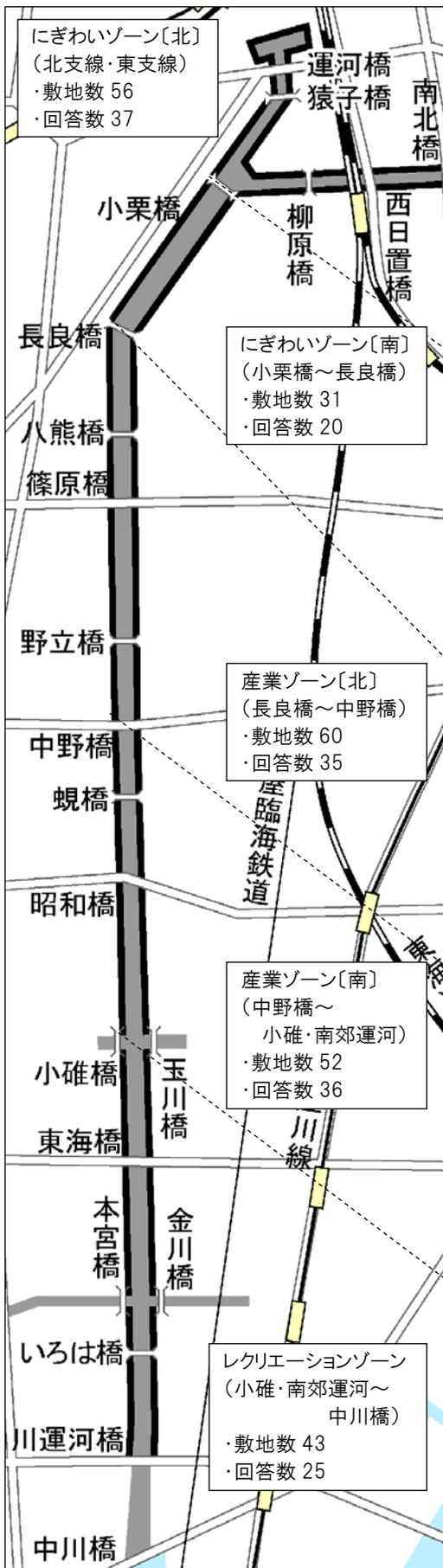
発 送：平成23年7月29日

回答締切：平成23年8月12日

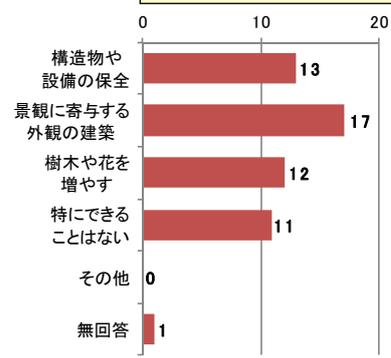
【回答状況】

		配布	回収	回答率
にぎわいゾーン (上流部)	[北] (北支線・東支線)	56	37	66.1%
	[南] (小栗橋～長良橋)	31	20	64.5%
モノづくり産業ゾーン (中流部)	[北] (長良橋～中野橋)	60	35	58.3%
	[南] (中野橋～小碓・南郊運河)	52	36	69.2%
レクリエーションゾーン (下流部)	(小碓・南郊運河～中川橋)	43	25	58.1%
合 計		242	153	63.2%

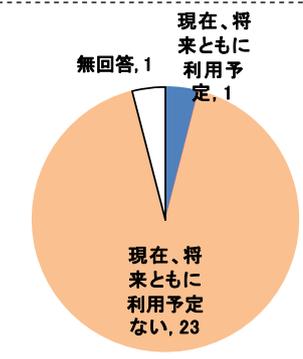
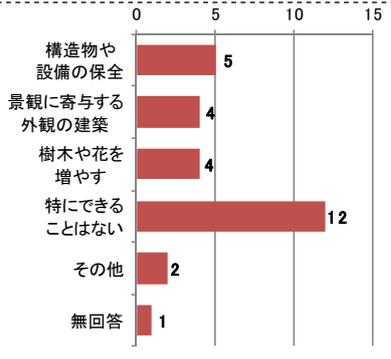
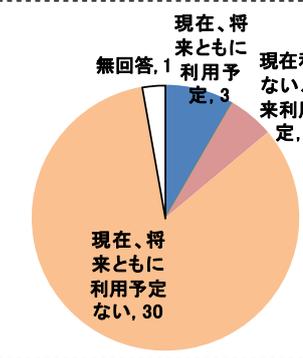
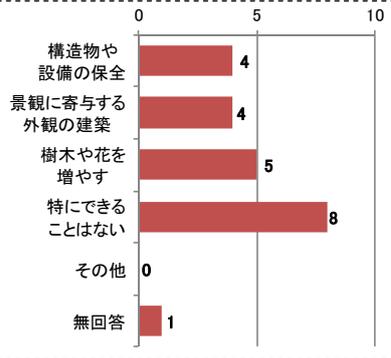
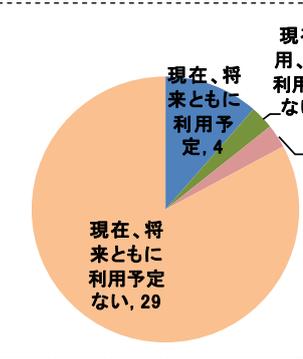
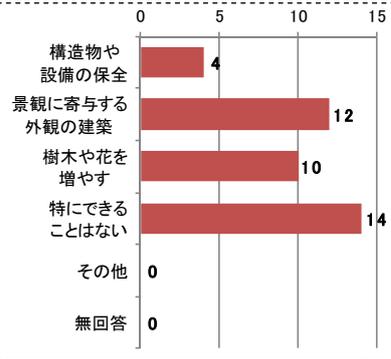
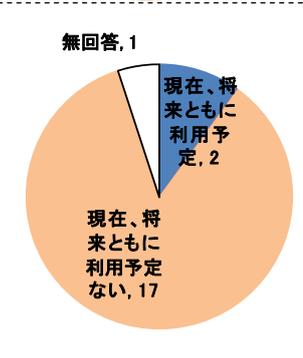
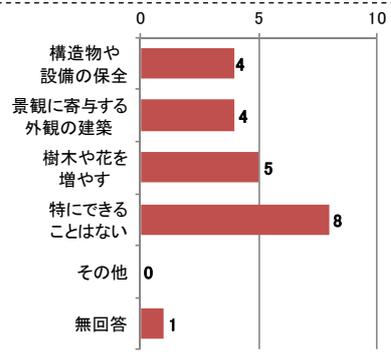
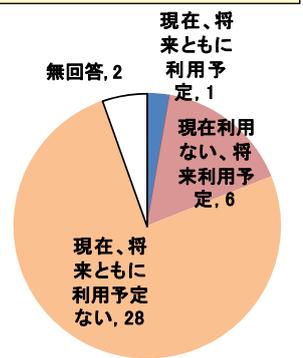
2. 調査の結果



景観形成への考え



水面の利用状況・意向



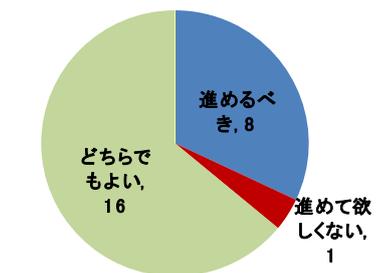
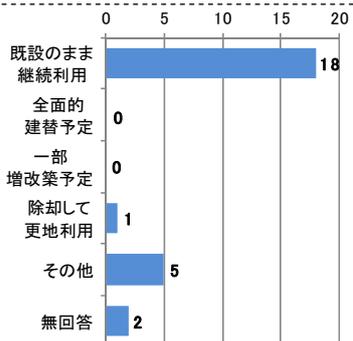
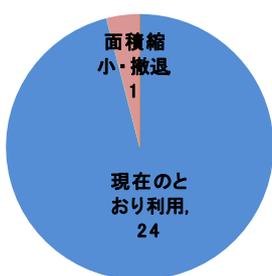
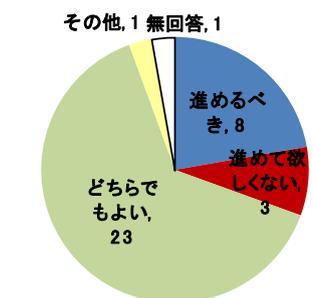
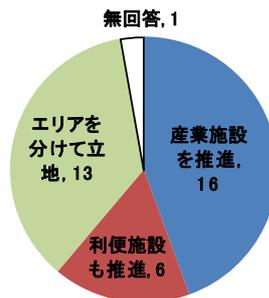
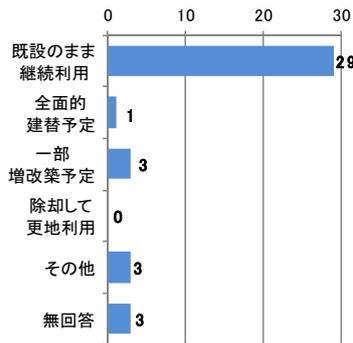
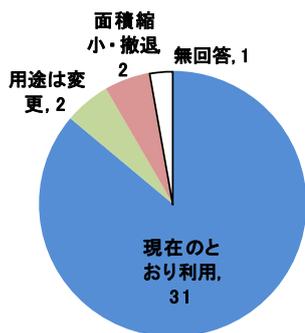
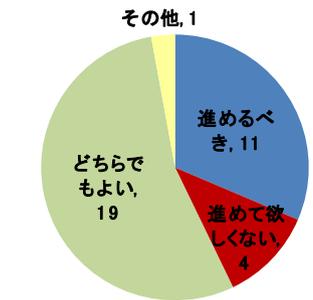
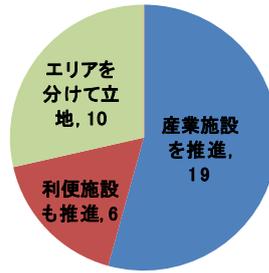
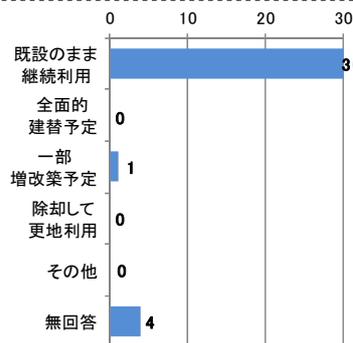
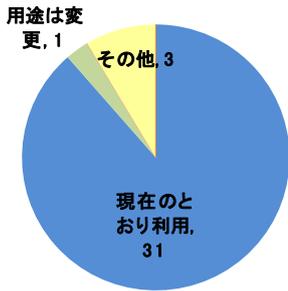
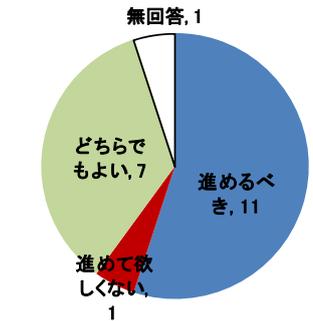
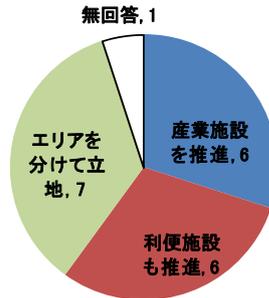
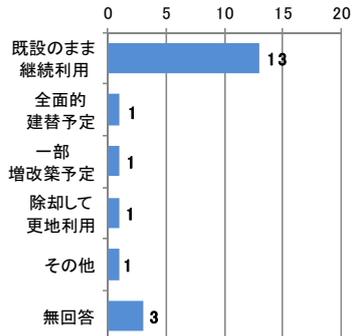
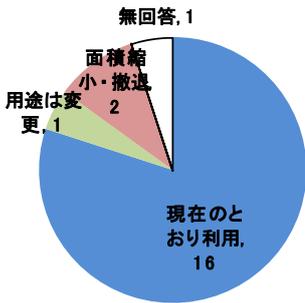
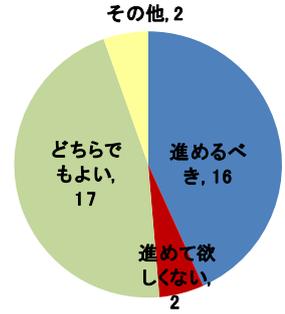
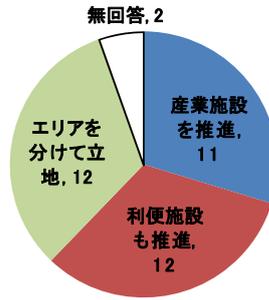
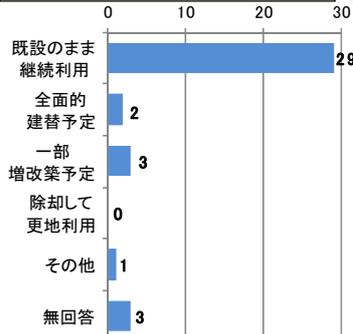
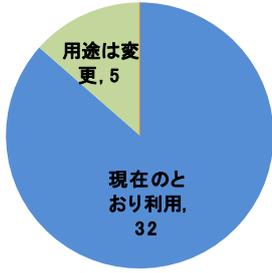
※グラフ中の数字は回答敷地数

沿岸用地の利用意向

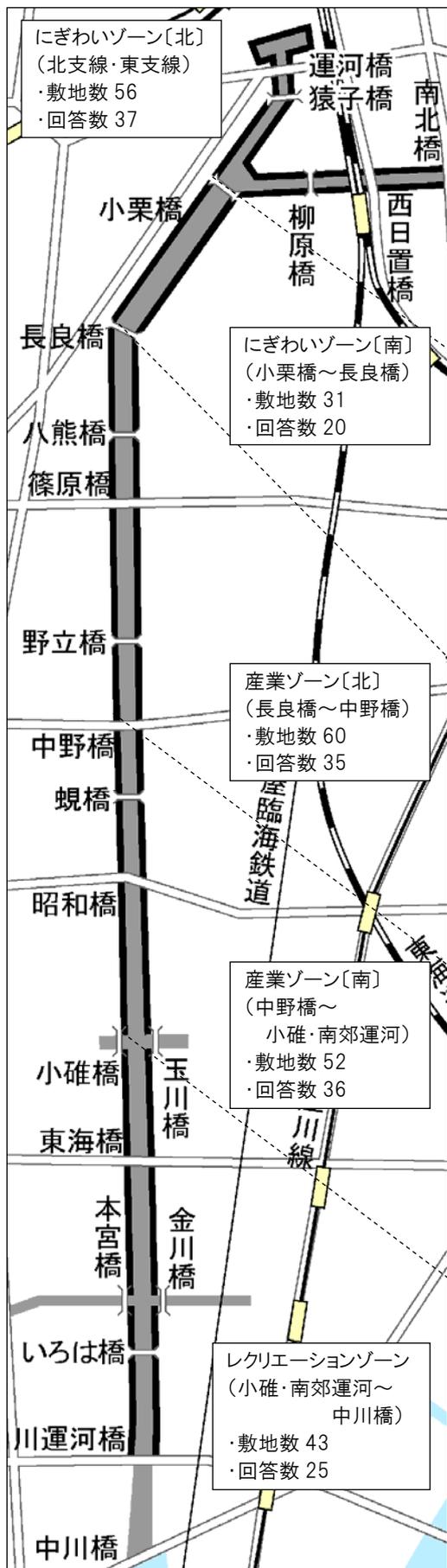
現在の建築物等の利用意向

沿岸用地の土地利用への意見

水上交通への意見



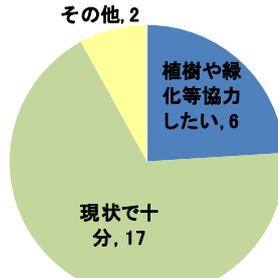
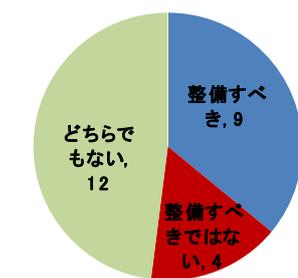
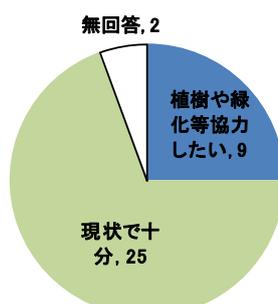
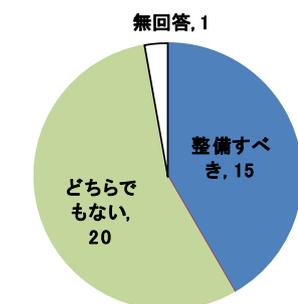
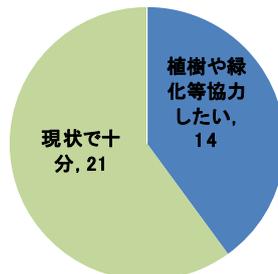
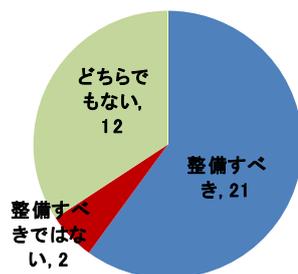
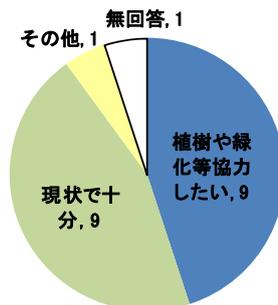
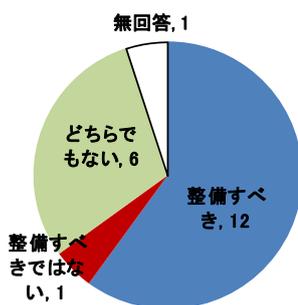
※グラフ中の数字は回答数地数



緑地の整備への意見

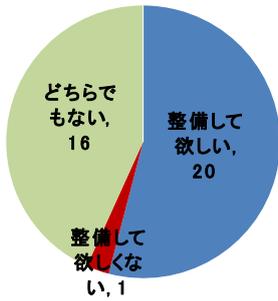


敷地内緑化への意見

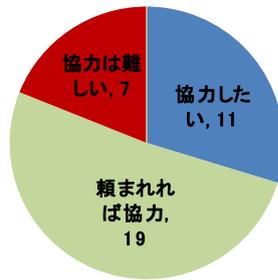


※グラフ中の数字は回答敷地数

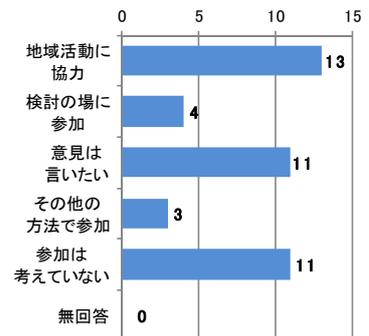
プロムナードへの意見



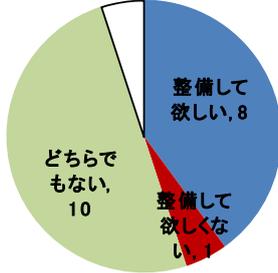
プロムナード管理への協力意向



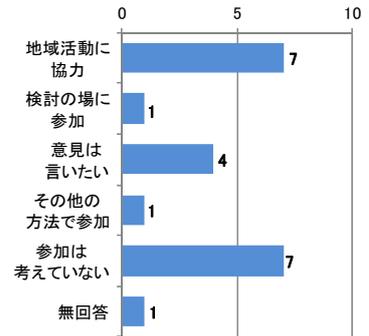
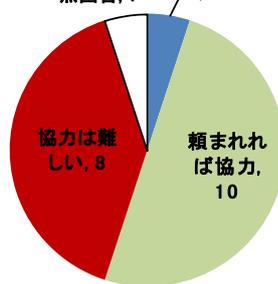
魅力向上取組への協力意向



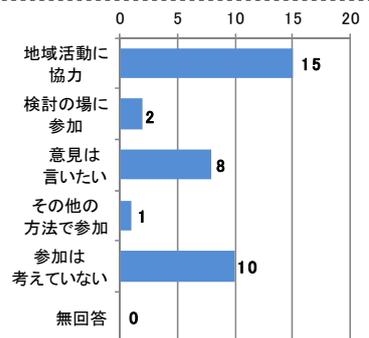
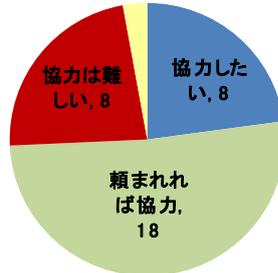
無回答, 1



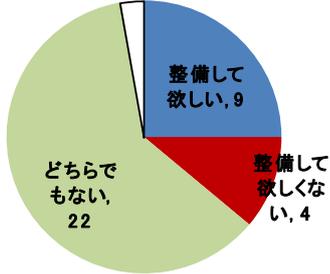
協力はしたい, 1



その他, 1

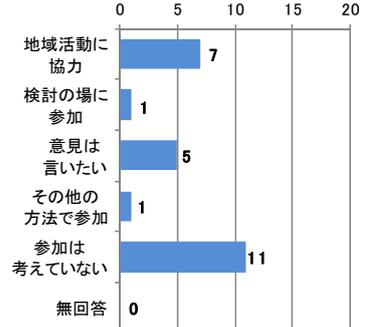
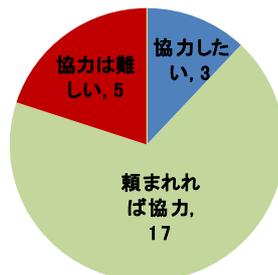
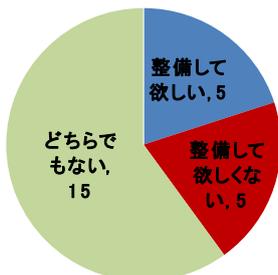
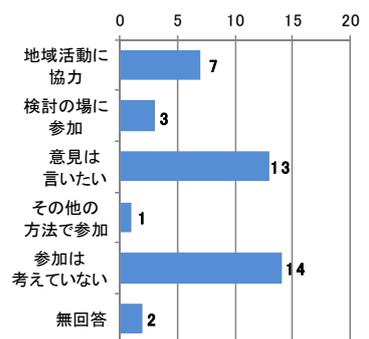
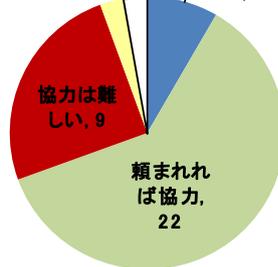


無回答, 1



その他, 1

協力はしたい, 3



資料6 市民や有識者の意見

1. 名古屋市中期戦略ビジョンに関連するアンケート調査等

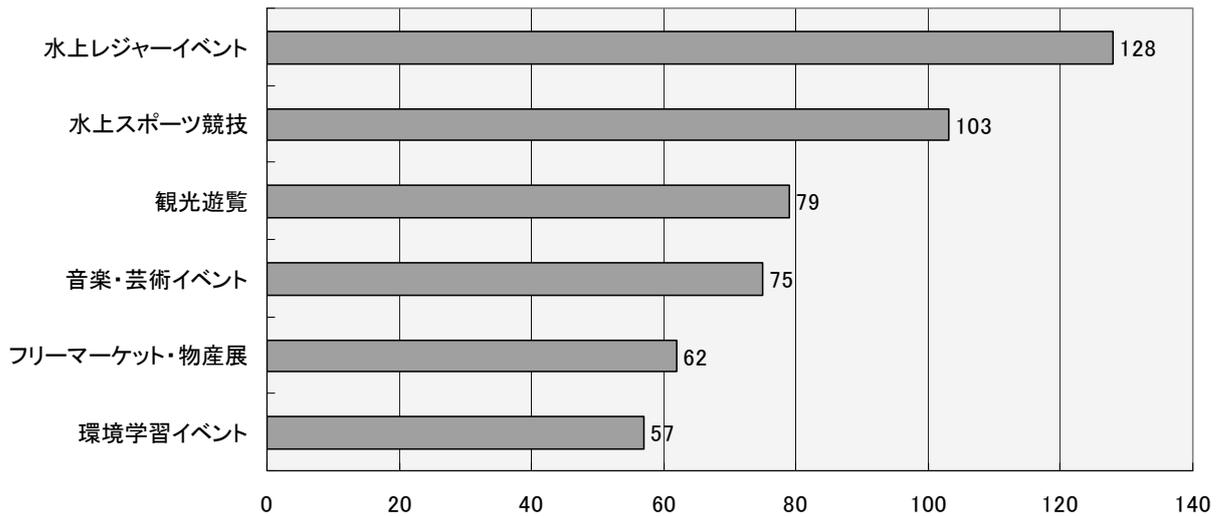
種 別	中川運河関連
<p>名古屋市中期戦略ビジョン(案)策定のためのアンケート (H21. 8)</p> <p>有効回収数：8,558人</p>	<p>○課題の重要度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震や大雨等に備えた、災害に強いまちづくりが進んでいる」(85項目中5位) ・「空気や水がきれいで、騒音や悪臭などがない快適な生活・居住環境が守られている」(85項目中6位) ・「憩い楽しむことができる公園などのスペースが身近に整備されている」(85項目中56位) ・「花や水、緑、生き物を身近に感じ触れ合うことができる」(85項目中57位) ・「市民がスポーツを行っている」(85項目中81位) ・「市民が文化、芸術活動を行っている」(85項目中82位) ・「市民が水辺に親しみ憩うことができる」(85項目中85位)
<p>名古屋市中期戦略ビジョン(案)策定にあたって寄せられた市民意見の内容 (H21. 11～H22. 1)</p> <p>意見件数：1,592件</p>	<p>○中川運河を利用して港から名古屋城にかけて、市民が憩うストリートがあれば楽しいまちになるように思う。歴史、自然を生かしたまちづくりに期待している。名古屋港から中川運河がベニスのようなになったら最高である。</p> <p>○小樽運河のように倉庫群をうまく利用して運河散歩ロードをつくるよい。</p> <p>○中川運河の整備をして、ボートやカヌーなどのコースにしてほしい。</p> <p>○堀川や中川運河、その他の川を利用して、船を市内観光に活用してほしい。</p> <p>○雨水に強いまち、道路冠水に対する排水能力向上対策をしてほしい。</p>
<p>名古屋市中期戦略ビジョン(案)に対する市民意見の内容 (H22. 2～H22. 4)</p> <p>意見提出者数：498人</p> <p>意見件数：740件</p>	<p>○松重閘門を復元して歴史的建造物の再現をはかり、堀川と中川運河を回遊する船のルートを可能にすれば観光にも寄与し、堀川の水質改善にも役立つのではないかと。</p> <p>○太陽・水・緑などを積極的に取り入れたまちづくりをしてほしい。</p>

2. 中川運河に関連するアンケート調査

第1回中川運河水上フェスティバル（H21.10.24）、「中川運河の再生に向けた活動報告」（H22.3名古屋都市センター）、中川運河・素敵未来フォーラム（H22.2.12）の来場者にアンケートを実施（回答者数：249名）

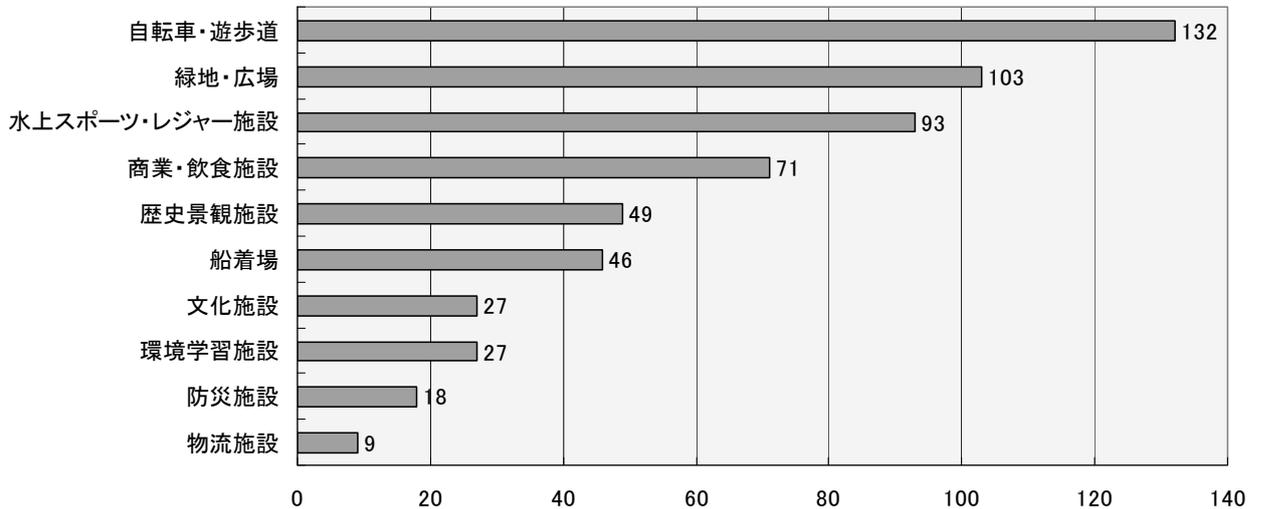
【中川運河で今後希望するイベント】

中川運河で今後希望するイベント（複数回答可）



【中川運河で今後希望する施設整備】

中川運河で今後希望する施設整備（複数回答可）



3. 各種提言・提案

(1) これからの中川運河のあり方

(H21.1 名古屋商工会議所 地域開発委員会 名古屋港研究会)

<p>中川運河の魅力ある再生のために(提言)</p> <p>◆再生コンセプト：風と水と緑の環境都市軸</p> <p>【水質浄化について】 「風と水と緑の環境都市軸」にふさわしいレベルの水質が実現できるよう、現状よりも水質の浄化に努める</p> <p>【都市防災機能について】 近年頻発する集中豪雨にも十分対応でき、安心して暮らせる名古屋とするため、さらなる都市防災機能の向上に努める</p> <p>【市民等の参加について】 市民共有の財産である中川運河の魅力再生に多くの市民等が参加できる枠組みを構築する</p>

項目	まとめ
中川運河に対する印象・感想	<p>○「水」と「緑」を提供する安らぎの場として存在感を発揮すべき。遊・休は再生のキーワード。都心から南へ伸びる新しい地域軸となる可能性に期待(名古屋発展の礎を築いた記念碑でもある中川運河への返礼のあり方でもある)。</p> <p>○一般市民の憩いの場所という雰囲気は全くない。「目玉」・「花」をどうしていくかが大きな課題。</p>
水域の活用	<p>○水辺に市民が近付けるような開発を行う。ボートや水上サイクルで遊べる親水空間として活用する。</p> <p>○水上ネットワークの構築や遊覧船の運航等。</p>
周辺環境整備	<p>○中川口緑地のような緑地整備、両岸の緑化の推進。緑道が全線に配置されスポット的に賑やかな区画がありながらも、全体としては落ち着きのある水辺空間になるのが良い。</p> <p>○今まで人が歩いていなかったところに急にレストランや店が並ぶとは思えない。基本的には今のままで、所々にオアシスがあるようなイメージが良い。</p>
防災機能	<p>○雨水の緊急貯留機能、都市における防火・延焼防止機能、水害防護機能が期待できる。緊急時の物資や人の輸送路として活用も考えられる。</p> <p>○行政が構築している防災対策の一環として位置づける必要がある。</p>

(2) 名古屋港水辺等整備検討業務

(H20 年度 国土交通省名古屋港湾事務所/NPO 法人伊勢湾フォーラム受託)

<p>運河プラットフォームの構築</p> <p>行政・地域住民が自由に参加できる場の必要性</p> <p>環境整備プログラム</p> <p>「市民交流軸」「都市再生軸」「港湾再生軸」「都市防災軸」「都市環境軸」として短期、中期、将来別整備計画</p> <p>基本計画(案)の提案</p> <p>コンセプト：みなと・楽市楽座の創造</p> <p>目標：「にぎわい、憩い、癒しのまちづくり」「安全・安心・快適なまちづくり」</p> <p>実現化に向けての課題整理と提案</p> <p>浚渫土砂の利活用</p>
--

(3) 中川運河・素敵未来フォーラム

(H22.2.12 名古屋都市センター主催)

<p>日時：平成22年2月12日（金） 午後2時～午後4時30分</p> <p>会場：サンゲツ名古屋 6階 トゥインビーホール</p> <p>参加人数：165名</p>	
<p>テーマ：「中川運河の素敵な未来を考える」</p> <p>論者：青山 美紀 氏（愛知県ボート協会理事・強化部副部長） 岡田 憲久 氏（名古屋造形大学大学院 造形研究科教授） 稀温 氏（コーディネーター、KION STUDIO 代表） 竹中 克行 氏（愛知県立大学 外国語学部 准教授） 原 佳宏 氏（㈱電通中部支社 プロジェクト推進部プロデューサー） 堀越 哲美 氏（名古屋工業大学大学院 工学研究科教授）</p> <p>進行役：羽根田 英樹 氏（名古屋都市センター研究主管）</p>	
中川運河のポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> ○街中でボートができ、2,000m直線コースがとれる場所である。ただし昭和橋から東海橋間の水管橋の橋脚がネックである。 ○統制のとれたデザインができる場所である。 ○幅が広く水位が一定、水面が近い等の特性がある。 ○都心の貴重な水辺空間である。 ○歴史的遺産である。 ○「風の道」であり都心部の大事な都市環境軸である。
中川運河の目指すべき方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○産業遺産的コンセプトを活かしながら整備する。 ○遊歩道の整備をする。 ○運河に慣れ親しむしくみ（道路から水辺に入れる等）が必要である。 ○アーティストビレッジを作って人が見たい場所とし、深く関わる人を増やす。 ○アピールする情報発信や共有体験を創出する。
具体的に何をすべきか？（最初の一步）	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者や市民のアイデア・声を集めみんなに知らせることから始める。 ○風の道をどう位置づけるか、環境コンセプトの場とする。 ○大学の授業として、どのようなビジネスができるか学生にやらせてみる。 ○民間を活用する。 ○既存の倉庫を活用しクリエイターが自由に活動できる場を提供する。 ○協働体験できるしくみ（屋外上映会、キャンドルナイト等）をつくる。 ○中川運河の利用価値を高めるため地代を上げる。 ○道路から水辺に入れる路地や緩衝帯をつくる。 ○閘門の通過体験をさせる。 ○開発が進む堀止、露橋、松重を回遊できるようにする。 ○市民がお金を出せるようなしくみをつくる。



中川運河・素敵未来フォーラム会場の様子

資料7 臨港地区・分区

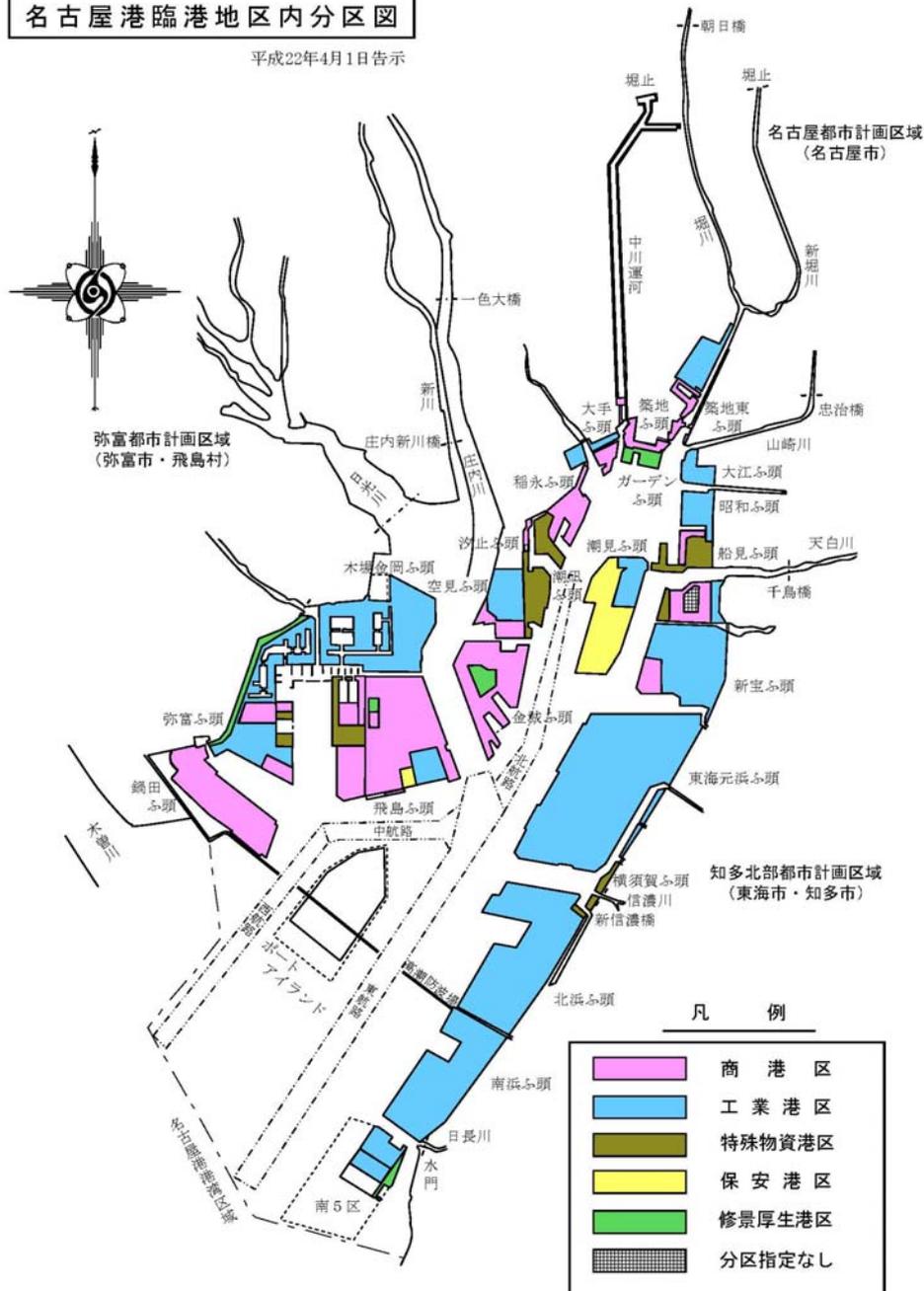
臨港地区に指定された区域内においては、港湾の多様な機能をそれぞれ十分に発揮させるために、臨港地区を機能別に区分して、目的の異なる建物が無秩序に混在することを防止する必要があります。

このため、名古屋港では、港湾法に基づいて「商港区」「工業港区」「特殊物資港区」「保安港区」「修景厚生港区」の5つの分区を指定して、分区の目的に従って構築物の用途を規制しています。

- ・商港区：旅客又は一般の貨物を取り扱わせることを目的とする区域
- ・工業港区：工場その他工業用施設を設置させることを目的とする区域
- ・特殊物資港区：石炭、鉱石その他大量バラ積みを通例とする物資を取り扱わせることを目的とする区域
- ・保安港区：爆発物その他の危険物を取り扱わせることを目的とする区域
- ・修景厚生港区：その景観を整備するとともに港湾関係者の厚生を増進を図ることを目的とする区域

名古屋港臨港地区内分区図

平成22年4月1日告示



3. 中川運河に生息する魚類等



ボラ



コノシロ



カタクチイワシ



スズキ



サツパ



マハゼ



オオギガニの一種



コウロエンカワヒバリガイ

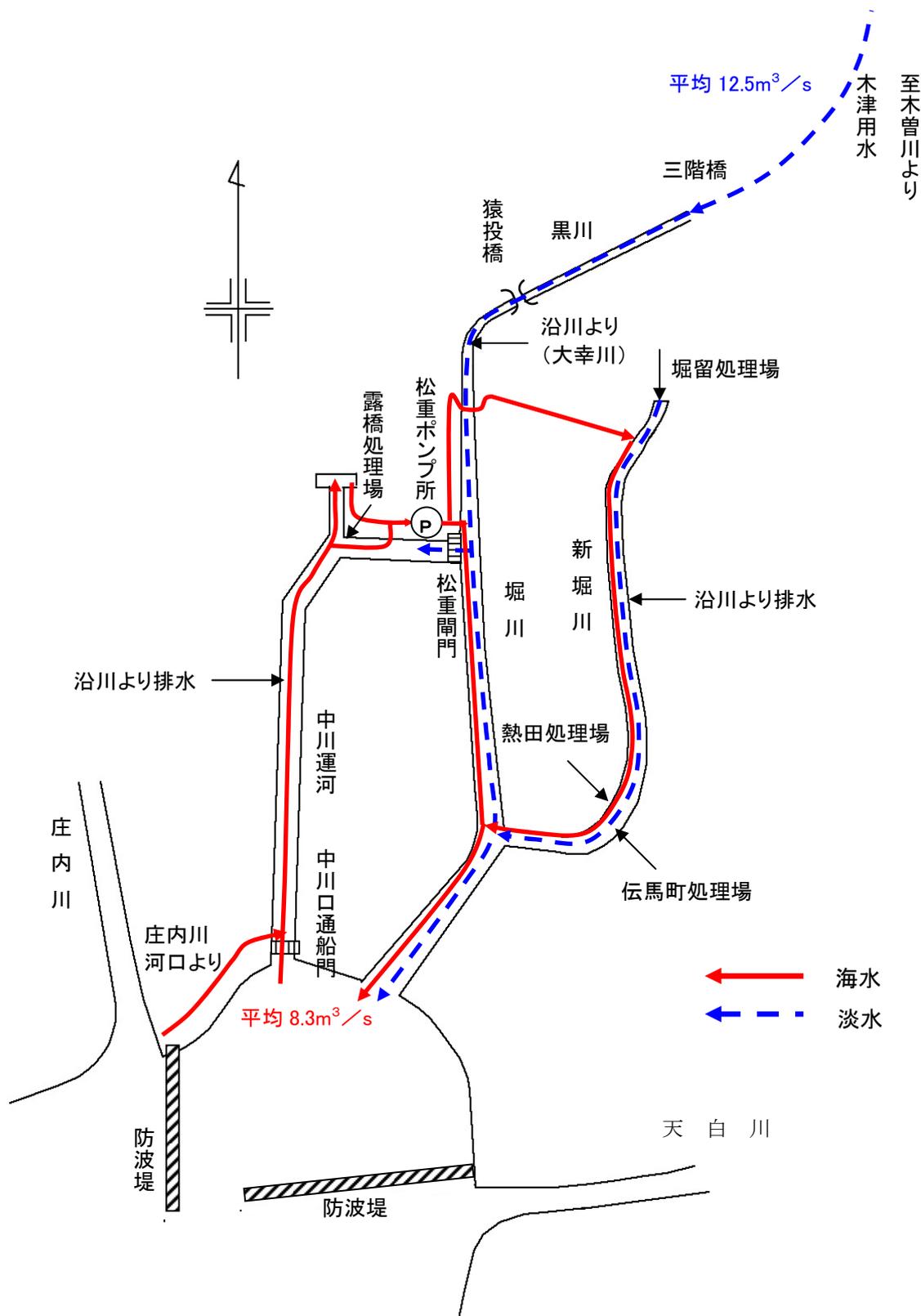


アメリカフジツボ

平成 18 年度 第 1 回中川運河環境再生技術検討委員会の概要資料より
(中部地方整備局名古屋港湾空港技術調査事務所)

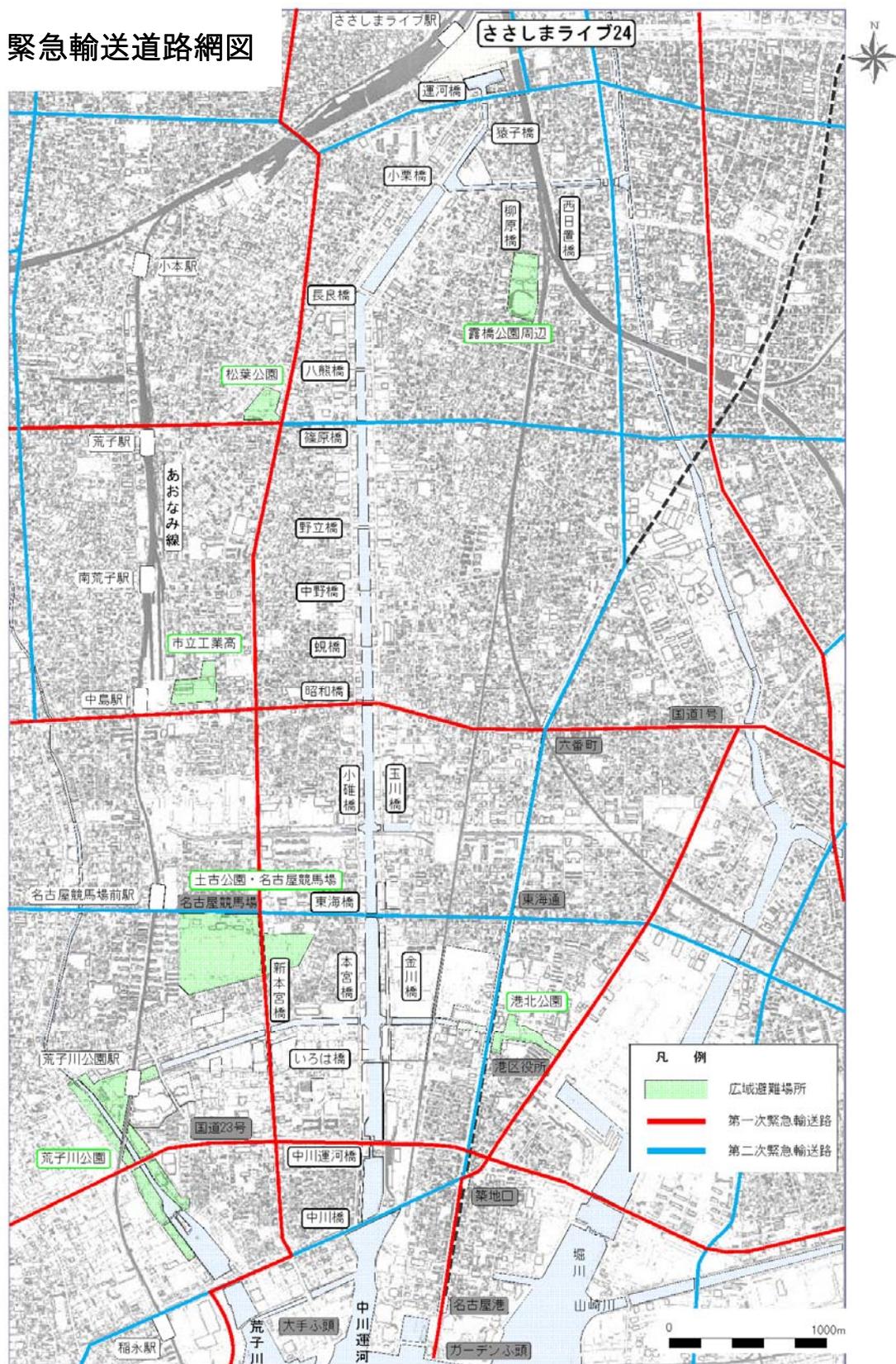
資料9 三川浄化構想

杉戸清 元名古屋市長が提唱したもので、主な内容は、木曾川疎流計画（木曾川導水による清水流注を平均 $12.5\text{m}^3/\text{s}$ ）と、海水還流計画（松重ポンプ所による海水還流を平均 $8.3\text{m}^3/\text{s}$ ）からなっている。



資料10 中川運河流域の防災ネットワーク

緊急輸送道路網図



- ・広域避難場所：大地震時に大災害が発生した場合避難する場所
- ・第一次緊急輸送路：県及び隣接市町村との連携を考慮して選定した広域的な路線
- ・第二次緊急輸送路：上記以外の重要な防災拠点を接続し、かつ、第一次緊急輸送路と合わせてネットワークとして機能する路線

資料 1 1 中川運河再生検討委員会設置要綱

(名称)

第1条 本会は、中川運河再生検討委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 委員会は、中川運河の再生に向け、次に掲げる項目を実施することを目的とする。

- (1) 運河整備の基本的な方向性を示すマスタープランである「中川運河整備基本計画（再開発基本計画）」の、運河を取り巻く環境の変化をふまえた見直し
- (2) 運河再生の具体的なスケジュール等を定めた「中川運河再生アクションプラン（仮称）（案）」の策定
- (3) その他、中川運河の再生に必要な検討

(構成)

第3条 委員会は、学識経験者、関係行政機関職員、名古屋市職員及び名古屋港管理組合職員等により構成する。

(委員会)

第4条 委員会は、別表1に掲げる者により構成する。

- 2 委員会には、委員長と副委員長を置き、委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員長が指名する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、これを主宰する。
- 4 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、副委員長が職務を代理する。
- 5 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
- 6 委員会は、緊急を要する場合は、持ち回りによって第2条に掲げる事務を行うことができる。

(部会)

第5条 委員会を補佐する下部組織として、部会を設ける。

- 2 部会は、別表2に掲げる者で構成する。
- 3 部会には、部会長を置き、部会長は部会員の互選により選出する。
- 4 部会長は、部会を招集し、これを主宰する。
- 5 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。
- 6 部会長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
- 7 部会は、緊急を要する場合は、持ち回りによって第2条に掲げる事務を行うことができる。

(謝金)

第6条 委員会及び部会（以下「委員会等」という。）は、別表3のとおり謝金を支給する。

2 第4条6項及び第5条7項により委員会等を行った場合は、謝金は支給しない。

(事務局)

第7条 委員会等の事務局は、名古屋市住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課、名古屋港管理組合企画調整室計画担当及び名古屋都市センター調査課とする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるものの他、委員会等の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附則

1 この要綱は、平成22年6月1日から施行する。

2 この要綱は、第2条の目的の達成をもって失効する。

附則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成23年6月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

委員会委員（別表1）

平成24年9月現在

種別	役職名等	備考
学識経験者	中部大学工学部都市建設工学科教授 松尾直規	◎
学識経験者	名古屋工業大学大学院工学研究科教授 秀島栄三	
学識経験者	名古屋大学大学院環境学研究科准教授 村山顕人	
国土交通省	中部地方整備局港湾空港部長	
国土交通省	中部地方整備局名古屋港湾事務所長	
名古屋市	住宅都市局まちづくり企画部長	
名古屋市	住宅都市局都市計画部長	
名古屋市	緑政土木局河川部長	
名古屋市	上下水道局技術本部計画部長	
名古屋港管理組合	企画調整室長	
名古屋港管理組合	港営部長	
名古屋商工会議所	理事・企画振興部長	
中川運河利用者懇談会	会長	
NPO法人 伊勢湾フォーラム	理事長	
堀川1000人調査隊 2010実行委員会	事務局長	
名古屋都市センター	上席調査研究統括監	

※◎は委員長

部会委員（別表2）

平成24年9月現在

種別	役職名等	備考
学識経験者	名古屋工業大学大学院工学研究科教授 秀島栄三	◎
学識経験者	名古屋大学大学院環境学研究科准教授 村山顕人	
国土交通省	中部地方整備局港湾空港部港湾計画課長	
国土交通省	中部地方整備局名古屋港湾事務所企画調整課長	
名古屋市	住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課長	
名古屋市	住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課主幹（中川運河）	
名古屋市	住宅都市局都市計画部歴史まちづくり推進室主幹（歴史まちづくりプラン）	
名古屋市	緑政土木局河川部河川計画課長	
名古屋市	緑政土木局河川部河川計画課主幹（堀川総合整備）	
名古屋市	上下水道局技術本部計画部下水道計画課長	
名古屋港管理組合	企画調整室計画担当課長	
名古屋港管理組合	企画調整室都市基盤担当課長	
名古屋港管理組合	企画調整室環境担当課長	
名古屋港管理組合	港営部管財課長	
名古屋商工会議所	企画振興部基盤整備グループ長	
中川運河利用者懇談会	事務局 伊藤伸彦	
NPO法人 伊勢湾フォーラム	相談役 田村伴次	
堀川1000人調査隊 2010実行委員会	事務局長	
名古屋都市センター	調査課長	

※◎は部会長

資料 1 2 用語解説

■あ行

アダプトプログラム	アダプト(ADOPT)とは、養子にすること。道路や河川など一定区画が住民や企業によって愛情と責任をもって清掃美化されることを「アダプト(養子にする)」に例え、「アダプトプログラム」と呼ばれる。
ウォータースポーツ	水上または水中で行うスポーツのこと。海で行うものを特にマリンスポーツとして区別することもある。
ウォーターフロント	都市の中で、海などの水面に近接した地域。港湾、工場など産業用に利用されることが多いが、近年、親水性を活かした住居・商業地域として開発される例が増えている。
エアレーション	汚水処理の最も基本的な操作で、汚物構成粒子を酸素に接触させるため空気を吹き込み、機械的攪拌により酸化作用を促進させ、好気性微生物による分解作用を期待するもの。
N.P.	名古屋港の潮位の基準(名古屋港基準面)のこと。既往最高潮位はN.P.5.31mで伊勢湾台風のときに記録した。
NPO	営利を目的とせず、特定の課題解決のために自主的に活動している民間の組織のこと。特定非営利活動法人(NPO法人)だけでなく、法人格を持たない市民活動団体やボランティア団体等も含まれる。

■か行

ガイドライン	ガイドラインは指標・指針・誘導指標・指導目標などと訳される。組織・団体における個人または全体の行動(政府における政策など)に関して、守るのが好ましいとされる規範(ルール・マナー)や目指すべき目標などを明文化し、その行動に具体的な方向性を与えたり、時には何らかの「縛り」を与えるもの。
景観アドバイザー制度	まちづくりを守り育てる活動を行う団体や市町村等の取り組みに対して、各主体の要請に応じて、県や市が景観に関するアドバイザーを派遣し、それぞれの地域特性や地域活動の状況に応じたアドバイスをを行い、景観形成に向けた取り組みが円滑に進むように支援するもの。
景観法	日本の都市や農村・山村・漁村等における良好な景観の保全・形成を促進するための法律。平成16年6月に制定され、同年12月に施行された。
閘室	水面に高低差のある場所で、水面を昇降させて船を行き来させるため、前後を扉で仕切った水位調節の空間。船を入れ、扉の開閉によって水位を昇降させ、一方を開いて船を進める。
高度処理水	水処理センターにおいて、従来の処理方法に比べ、主に窒素・リンを多く除去できる処理方式により、下水をきれいに処理した水。
閘門	高低差のある水面間に船舶を通航させるための構造物で、ロックともいう。水位の異なる河川と運河を連絡する場合や、河川にダムや堰(せき)を設けた場合などに設置される。
港湾区域	港湾管理者が港湾として管理する水域。港湾法で定める手続きにより、国土交通大臣又は都道府県知事が認可する。
港湾施設	港湾としての機能を支障なく発揮できる全般の施設。港の種類や規模により異なるが、港湾法では、港湾区域及び臨港地区における施設と、港湾の利用や管理に必要な施設について定めている。(港湾法第2条5項1~14号)
合流式下水道	汚水と雨水を一本の管で集める下水の排除方式。一方、汚水と雨水をそれぞれ別の管で集める排除方式は分流式下水道と呼ばれる。
護岸	河岸や河川の堤防が流れによって崩壊するのを防いだり、あるいは海岸において波浪や高潮、津波によって地盤が浸食されるのを防ぐための構造物。

■さ行

潮待ち	船の航行に適した潮を待つこと。
自然排水	地形の勾配を利用して雨水を排水すること。
商港区	港湾法に基づいて指定された分区のひとつで、旅客又は一般の貨物を取り扱わせることを目的とする区域。
親水空間	治水機能だけでなく、水辺で遊んだり、河川沿いを散策したりする、水に親しむ機能を持った空間。
水管橋	河川などを横断するときに設ける水道管路専用の橋。
水質汚濁防止法	工場・事業場から公共用水域に排出される水の排出と地下に浸透する水の浸透を規制することや、生活排水対策を推進することなどにより、公共用水域や地下水の水質の汚濁の防止を図り、国民の健康を保護するとともに生活環境を保全することを目的とした法律。
スポンサー制度	一般企業や団体から協賛金を募り、都市部に花壇を設置したり、市民の協力を得て花壇の維持管理を行っていく制度のこと。
生物多様性	地球上に多様な生き物が存在し、それらが支え合ってバランスを保っている状態のこと。

■た行

地区計画	地区計画とは、地区の課題や特徴を踏まえ、住民と自治体とが連携しながら、地区の目指すべき将来像を設定し、その実現に向けて都市計画に位置づけてまちづくりを進めていく手法。
通船門	閘門に同じ。名古屋港管理組合では、昭和 51 年 10 月に、中川口閘門を中川口通船門に改称した。
都市再生緊急整備地域	都市再生特別措置法に基づき、都市の再生の拠点として、都市開発事業等を通じて、緊急かつ重点的に市街地の整備を推進すべき地域として、国が政令で指定するもの。
低炭素都市	地球温暖化の原因の一つとされる温室効果ガスの排出量が少ない産業・生活システムを構築した都市のこと。

■な行

名古屋港カラー計画	ロマンと活気にあふれた港づくりをめざして、名古屋港内の建築物、工作物の配色の方針を示した計画。構築物の配色に一定のルールを用いてコントロールすることで、地区のイメージを好ましい状態にし、港のゾーニングを明確にすることを目的としている。
名古屋市緑化地域制度	市内の民有地の緑地減少に歯止めをかけるため、一定規模以上の敷地において、建築物の新築や増築を行う場合に、定められた面積以上の緑化を義務付ける制度。都市緑地法に基づき、緑のまちづくり条例を改正し、平成 20 年に施行された。
名古屋歴史的建造物保存活用推進員	登録地域建造物資産に登録などした身近な歴史的建造物の保存・活用について、技術的な相談に対応するもので、通称は「なごや歴まちびと」。
南海トラフの大規模地震	南海トラフとは、日本列島の南側を走る水深 4,000m 級の深い溝（トラフ）のこと。南海トラフでは、陸側のユーラシアプレートの下に海側のフィリピン海プレートが沈み込んでおり、プレートの境界付近では、東海地震、東南海地震、南海地震などの巨大地震が繰り返し発生する。
荷役施設	物品の輸送・保管の際の積みおろし、倉庫へのしわけ入出庫および仕分作業をする施設。

■は行

BOD	Biochemical Oxygen Demand の略。COD とともに有機物による水質汚濁の程度を示すもので、有機物などが微生物によって酸化、分解される時に消費する酸素の量を濃度で表した値をいう。数値が大きくなるほど汚濁が著しい。
PDCAサイクル	事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法のひとつ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（確認）→ Act（見直し）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するもの。
富栄養化	水域での生物の繁殖が活発になる現象を一般に富栄養化といい、この現象は淡水、海水を問わず、水中の栄養塩類（窒素、りん等）の流入増加により起こるとされている。
船だまり	漁船、はしけ、作業船などの比較的小型の船舶を係留させる場所。
プロムナード	遊歩道のこと。フランス語で「散歩」あるいは「散歩の場所」を意味する言葉。
分区	臨港地区では、目的の異なる建物が無秩序に混在することを防止する必要があるため、名古屋港では、港湾法に基づいて「商港区」「工業港区」「特殊物資港区」「保安港区」「修景厚生港区」の5つの分区を指定している。
閉鎖性水域	地形等により水の交換が悪い内湾、内海、湖沼等の水域のこと。
ポケットパーク	ベストポケットパーク（vest pocket park）の略で、チョッキのポケットほどの公園という意味。わずかな空間を利用し都市環境の改善を図るもの。

■ま行

水環境	水質や水量など、水に関わる環境要素によって構成される環境の状態を表したもの。
物揚場	船舶を係留させて、荷物等を積み卸しすることのできる港湾施設で、前面水深が浅いものを指す。港湾では水深が 4.5m 未満のものを物揚場、それ以上深いものが岸壁。漁港では水深 2.5m 以下を物揚場、3.0m 以上のものを岸壁と呼ぶ。

■ら行

ライフスタイル	生活様式。特に環境・趣味・交際などを含めたその人の個性を表すような個人の生き方。
臨港地区	都市計画法で定める地域地区のひとつ。港湾区域と一体となった土地利用を行い、港湾機能の増進、水際線の有効利用等を図るために定める地区。
歴史資産	歴史的建造物などで、地域を特徴づける重要な役割を果たしているもの。
連続排水	雨水を自然流下またはポンプ排水により連続的に河川等へ排水すること。

中川運河再生計画

歴史をつなぎ、未来を創る運河

～名古屋を支えた水辺に新たな息吹を～

名古屋市 住宅都市局 都市整備部 名港開発振興課
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 番号：052-972-2784 FAX：052-972-4161
電子メール：a2784@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp

名古屋港管理組合 建設部 総合開発課
〒455-0033 名古屋市港区港町1番11号
電話 番号：052-654-7973 FAX：052-654-7992
電子メール：sougou@union.nagoyako.lg.jp